

ブラセロ計画とカリフォルニア農業

庄 司 啓 一

1. はじめに

第二次世界大戦の勃発は、アメリカ農産物の需要を急速に拡大し、農産物価格を急騰させ、農場主の利潤を倍増させた。この事態への農場主の対応は耕作面積の拡大、トラクターを中心とする動力機械の採用の増加、農薬・肥料の増投による生産力の上昇であった。そのなかで、カリフォルニア農業の農産物販売額は、1940～1945年間に、農作物が2億2千万ドルから9億8千万ドルへ、畜産物が1億7千万ドルから4億2千万ドルへと増大し、アイダホ州を抜いて全米第一位の農産物販売州となった。この需要の拡大に伴う農産物価格の高騰にもかかわらず、カリフォルニア州の農場人口が減少し、農業労働者の賃金の上昇が引き起こされた。この全米第一位の農産物販売州にとって最大の問題は、いかに十分な農業労働者を確保し、農業労働者の賃金を抑制するかということであった。このような状況のなかで、農場主の労働力不足の叫び声が次第に高まっていった¹⁾。

1940年時点において州農場の65%が数人の賃金労働者を使用し、農場経常費の30%近くを賃金支払い額が占めていた。そのため、果実、野菜、綿花などの商業作物を集約的に経営する農場の多いカリフォルニア州の農業にとって、賃金労働者の確保というのは一部の大規模経営農場の問題ばかりでなく、総農場の半数以上を占める50エーカー以下の農場経営者にとっても不可欠の問題であった。つまり、賃金労働者の問題は州農業全体にとって「死活的」重要性をもつ問題として捉えられていた。換言すれば、カリフォルニア州での農業問題は労働問題の性格が強く、どうすれば農業労働者の減少にもかかわらず、農村に十分な「過剰人口」を永久化することができ、またそれによって農業労働者の「最低限の賃金」を永久化できるか、ということであった²⁾。

1) カリフォルニア州の農場人口は、1940～45年間に、67万人から56万5千人へと10万人5千人が減少した。この減少にもかかわらず、雇用労働者を使用する農場数は8万2千から9万農場へと増加し、それは州農業数全体の65%に達し、雇用労働者への賃金支払い総額は1億ドルから3億ドルへと3倍も高騰した。

2) Lloyd Fisher, *The Harvest Labor Market in California*, p. 123, 1953. 砂糖大根の間引き労働は、1942年3月にはエーカー当り9ドルであったが、5月には16～18ドルへと上昇した。アスパラガスの切り取り作業は3月には100ポンド当り1ドルであったが、シーズンの終わりにはそれが3ドルへ上昇した。そして、10エーカー（日本の2町歩相当）のピーチ、トマト、アプリコットでも雇用労働なしには収穫作業は不可能である。しかも、作物により収穫時期が異なる。したがって、季節労働への集中的需要となってあらわれる。各々の農場は収穫期が一致する作物も多くあり、作物の耐腐性の

それでは、カリフォルニア州の農場主はいかにしてこの難題に対処したのであろうか。まず、農場主が念頭に置いたのは、南の隣国メキシコ農村に堆積した無限とも思われる「過剰人口」の存在であった。この「過剰人口」の導入を実現したのがメキシコ・アメリカ政府間の戦時の行政協定、いわゆる、「ブラセロ計画」³⁾であった。ブラセロ計画は戦後も継続され、1964年の終わりまで20年以上も続き、延べ人数で約500万以上のメキシコ人が契約労働者として、アメリカ南西部の農場を中心として導入された。さらに、ブラセロのほかに、政府の「お墨付き」をもたないメキシコ人が導入された。

それでは、何故このように長期にわたり、大量のメキシコ人労働者をアメリカの農業が導入したのか。本稿においては大量のメキシコ人を吸収したカリフォルニア農業における導入のメカニズムとその労働市場におけるメキシコ人労働者の地位と役割に焦点を当て論じてみたい。

2. ブラセロ導入のメカニズム

a. ブラセロ導入の地域的特徴と量的推移

戦時にブラセロを導入した州は全米で24州に及び、ブラセロの数は20万人を越えた。そのうちの63%がカリフォルニア州一州に集中し、他には、ワシントン、アイダホ、オレゴン州などの北西部に多く導入された。作物ではブラセロは果実、野菜、綿花などに集中し、家畜、酪農、家さん、一般農場にはほとんど導入されなかった。その上、ブラセロの労働は収穫時の不熟練・肉体労働に限定されていた。テキサス州には人種差別が存在するという理由でブラセロが供給されず、そこではもっぱらウエットバックを導入した。

しかし、戦後になると、ブラセロを使用する農場の中心が南西部へと移り、1949年にはテキサス州にブラセロの46%、ニュー・メキシコ州に17%、アーカンソー州に16%、これらの3州に79%が集中し、戦時期に最大のブラセロ受け入れ州であったカリフォルニア州はこの時期に8%のブラセロしか導入しなかった⁴⁾。その後、1951年の公法78号制定以降、ブラセロの数が年間19万人台へと急増し、1950年代中頃から30~40万人台へと達し、その主要な受け入れ州は

欠如・腐食しやすいために、1週間から10日間の短期の集中的作業が必要である。しかも、これらの特化された農場が地域的に集中されているために労働需要はさらに逼迫する。サンホワッキン平原のブドウとトマトの収穫は秋季に集中するため、短期に大量の「手の労働」が必要となり、しかも、作物の性質上、7~10日間のうちに収穫せねばならないために、農場主はあらゆる方法を駆使して労働力の確保に勤めねばならない。

3) ブラセロ計画については拙稿「ブラセロ計画についての一考察」『城西経済学会誌』第19巻第1号参照。

4) *Report of the President's Commission on Migratory Labor*, 1951, pp. 39-40. 南部でもアーカンソー州ではブラセロが導入され、シェアカロッパーに取って替わり、重要な労働力化していった。V. Perlo, *The Negro in the Southern Agriculture*. 1948年、アーカンソー州では黒人の綿花摘花労働者が1万3千人のブラセロにとって替わられた。Matt Meiere and Feliciano Rivera, *The Chicano*, 1972, p. 203.

表1 ブラセロ・ウエットバック・コミュニーターの量的推移（全米）

	ブラセロ	ウエットバック	コミュニーター
1942	4,203	11,784	n. a
1943	53,098	11,175	//
1944	62,170	31,174	//
1945	49,494	69,164	//
1946	32,043	99,591	//
1947	19,632	193,657	//
1948	35,345	192,779	//
1949	107,000	288,253	//
1950	67,500	468,339	//
1951	192,745	509,040	//
1952	197,100	528,815	9,079
1953	201,380	885,587	17,183
1954	309,033	1,089,583	30,645
1955	398,650	254,096	43,702
1956	445,197	87,696	61,320
1957	436,049	59,918	49,321
1958	432,857	53,474	26,791
1959	437,643	45,336	22,909
1960	315,846	70,684	32,708
1961	291,420	88,823	41,746
1962	194,978	92,758	55,805
1963	186,865	88,712	55,986
1964	177,736	86,597	34,448

出所: *Report of the Select Commission on Immigration and Refugee Policy*, 1979, p. 34 T. 2 and p. 40 T. 3 and *Report of the Select Commission on Western Hemisphere Immigration*, 1968, pp. 40-56, より作成。

カリフォルニアとテキサス州であった。カリフォルニア州の場合、ブラセロは、1952年には4万人、1959年には9万人へと増加し、1942～64年間に延べ200万人のブラセロを導入したと推定されている。

b. その他のメキシコ人労働力

ブラセロが両国間の協定によって一定の保護をうけたのに対して、ウエットバック⁵⁾には保護がなく、農場主にとってなんらの制約をうけない搾取「自由な」外国人労働者であった。ウエットバックはかつてのブラセロで契約期間がきれて不法滞在化した者、ブラセロとして契約

5) ウエットバック(wetback)とは、1920年代以降、メキシコからアメリカへ合法的査証なしに入国するためにリオ・グランデ川を渡った人々から由来する。他には、サンディエゴ、エルパソなどのフェンスを破って不法に入国する人々はアラムブリスタ(alambrista)と呼ばれる。詳しくは Julian Samora, *Los Mojados: The Wetback Story*, 1971, pp. 6-7参照。Ernest Galarza, *Farm Workers and Agribusiness in California, 1947-1960*, 1977, pp. 32-33。ガラルサは、ウエットバックを「法律外労働市場」(extra legal labor market)と規定している。Ibid., p. 36。

をできなかった者が多く、ブラセロとの違いは政府の「お墨付き」をもらえなかったということだけであった。雇用主にとってブラセロもウエットバックも「同じメキシコ人」であり、ウエットバックもブラセロ計画の一構成部分であった。ウエットバックは、ブラセロ計画が進むに連れて増加し、彼らはブラセロ同様の野菜・果実・綿花を中心とした作物農場に導入され、ブラセロの半分の賃金で肩を並べて一緒に働いた。1940年代の後半、一連のストライキへのウエットバックのスト破りとしての導入が労働組合、社会福祉団体、そして議会などによって批判をうける過程で、農場主団体はウエットバックの合法的取得方策を推進した⁶⁾。そして、戦後、政府間協定が一時中断、暫定協定が結ばれた1947～49年間には、7万4,600人のブラセロが導入されると同時に、アメリカ国内に不法に滞在するウエットバック14万2,000人が合法化＝ブラセロ化された。このような事態のなか、多くのメキシコ人は将来のブラセロ化を狙って大量に不法入国し⁷⁾、1950年にはカリフォルニア州では季節農業労働市場の60%にも達した、と推定されている⁸⁾。

このように、ウエットバックの増加と合法化＝枯渇化 (drying out) が同時併行的に推進され、アメリカ国内には大量のメキシコ人労働者が堆積された。そして、1950年代初頭、十分なブラセロが確保される段階に至り、公法78号が制定されブラセロ計画が制度的に確立した。その後、ウエットバックへの規制が強化され、1954年には鳴り物いりで「ウエットバック掃討作戦」(Operation Wetback)⁹⁾が実施され、年間100万人を越えるウエットバックが毎日のように報道関係者注視のもとで逮捕された。50年代中頃以降、農場主団体を通じて、年間30～40万人台のブラセロが恒常的に導入され、ウエットバックの逮捕者の数も急減していった。

1952年移民法 (公法414号) によって生み出されたのが「グリーンカード・コミューター」¹⁰⁾であった。この時期には、依然としてメキシコからの移民に対しては移民人数の制限が課されていなかった。したがって、メキシコ人はアメリカの雇用者からの職を保証する書類があれば、誰でも永住労働者査証を入手することが可能であった。この移民の規定にもとづいて入国した者の多くがかつてのブラセロであった。「グリーンカード・コミューター」とは「移民、永住

6) 1949年議会においてカリフォルニア州の大農場ディジョージョー農場の社長であるロバート・ディジョージョーは次のように証言している。「私たちは雇用応募者がメキシコ市民であるか否かについて知るすべは全くない。私たちは彼らの言葉を信じるだけである」。Ernest Galarza, *Farm Workers and Agribusiness in California, 1947-1960* p. 24. また、1947年のディジョージョー農場でのストライキとメキシコ人の導入とその役割について同書、pp. 98-117参照。

7) ウエットバックの合法化、そして「エルパソ事件」については *Report of the President's Commission on Migratory Labor*, pp. 52-53.

8) Ernest Galarza, *Farm Workers and Agribusiness in California, 1947-1960*, pp. 32-33.

9) ウエットバック掃討作戦とその意味については Julian Samora, *Los Mojados: The Wetback Story*, pp. 51-53. Ernest Galarza, *Merchants of Labor, 1964*, pp. 69-71 を参照。

10) グリーンカード・コミューター (Greencard-Commuter) に次いでの詳細は *Report of the Select Commission on Western Hemisphere Immigration*, pp. XVII-XVIII 参照。

権保持者、あるいはカナダ、メキシコに居住し、雇用の目的でアメリカ合衆国に通勤することを許可された外国人」である。彼らはブラセロと異なり、法的にはかいなる職業にも従事することが認められている、「職業選択の自由」をもった外国人労働者である。彼らはブラセロと異なり、滞在期限が課されず、家族を伴うことが許され、労働市場では「ドメスティック」、つまり、国内労働者と同様に取り扱われ、収穫労働以外の機械操作、灌漑管理などの一般的労働に従事する常雇用労働者として働くものが多かった。農場主は移民法に基づく正規の移民として国内労働者と同様に扱われたコミューターを好んで雇用した。彼らは農場主によって選別・信頼された、ブラセロ計画のなかの「核」をなすエリート¹¹⁾であった。コミューターの数は、1952年には全米で9千人程度であったが、60年には6万1,000人へと大きく増加し、そのうち3～3万5,000人がカリフォルニア州の農場で雇用された。だが、コミューターが本格的に増加したのは、ブラセロ計画が廃止された1965年以降であった。西半球からの移民に関する特別委員会の報告書の指摘しているように「コミューターの一定のプールがブラセロ計画廃止にとって重要な役割を演じた」¹²⁾。

c. ブラセロ調達と管理の機構

収穫時に必要な労働者を十分に確保し、その時期が終了すると農場を去って行く、そのような労働力を獲得するのに理想的な労働力調達方式が労働力請負制度であった。農場主団体と契約を結んだ労働請負人が労働者の募集、監督、輸送、賃金の支払い、住居・食事の世話まで全てを請け負い、農場主へ必要とする時期に必要な数の労働者を供給するのが請負制度である。カリフォルニア州の農業はこの請負制度が歴史的にも労働力調達・管理の不可欠の一構成部分を成してきた。この請負人は特定の時期・場所で「過剰」となった労働者を「不足」となった時期と場所とに十分な労働者を供給した。労働請負人の責任において人種・民族、移民資格別に異なった労働者を集団的に確保し、集団的に労働・生活させ、それらの異なった集団を互いに競争・対立させ、ストライキなどのさいにはスト破りを導入させ、賃金を出来るだけ少なくし、最大の利潤を確保してきたが州農業の歴史であり、そのために、この労働者請負制度は最良の方式であった。

カリフォルニア州のなかで、ブラセロを集中的に雇用した地域をみると、初期にはインペリアルバレー、サンディエゴ、ベンチュラなどの南部地域、それに北部モンタレーの主要野菜栽培地域であった。しかし、次第に中央部農業地域のサンホワッキンバレーへと拡大されていった。これらの地域に共通する特徴は、特殊な商業作物の集中した地域であり、各々強力な農場主団体を持っているということであった¹³⁾。

第二次大戦期にいたるまで季節移動農業労働者を組織的・系統的に募集する農場主団体は事

11) Ernest Galarza, *Merchants of Labor*, p. 93.

12) *Report of the Select Commission on Western Hemisphere Immigration*, p. 104.

13) Ernest Galarza, *Merchants of Labor*, p. 87.

実上存在せず、農場主は新聞広告、労働請負人、あるいは連邦・州政府の雇用機関に依頼して労働者を確保した。農業労働者の確保には、言語、慣習、社会的形態、生活様式などの違いから、雇用者と労働者との仲介者が必要であった。そのため、公式の労働請負人の他に、仲介者は仕事を探す者とそれを供給する者とが頻繁に出会う場所に永く居住している者に多く依存し、農業についての一定の知識をもつ商店主、食堂の経営者、教会の牧師などが仕事を探す場合などが多くあった¹⁴⁾。

戦時期には、政府が農場主団体の育成・結成に密接に係わり、カリフォルニア州では、1943年から47年間に新たに34の農場主団体が設立された。そして、ブラセロ計画がすすむにつれ、メキシコ人契約労働者が農場主団体を通じて供給・管理されるようになり、労働請負人は農場主団体の会員として組み込まれ、その管轄下に置かれ、ブラセロ調達・管理の「下請け」¹⁵⁾の役割を担うようになっていった。政府はブラセロの調達・管理＝請負機関としてこの農場主団体の育成を図り、公法78号制定後は農場主団体を通さずにブラセロを導入することが事実上不可能となった¹⁶⁾。

1956年のブラセロ雇用者数を農場主団体別に見よう（表2）。

表2 農業主団体別ブラセロ雇用者数

San Joaquin Farm Production Association	25,562
Imperial Valley Labor Association	11,401
Growers Farm Labor Association	9,014
Northern California Growers	8,251
Yolo Growers Inc.,	6,211
San Diego County Farmers Association	4,526

出所：Ernest Galarza, *Merchants of Labor*, p. 175 より作成。

ブラセロ計画では両国の政府機関がこの労働者の調達・管理＝請負に積極的に介入した。戦時計画では農務長官が必要とする農産物の生産量を確定し、それに基づいて国務省がメキシコ外務省と一種の「団体交渉」¹⁷⁾を行い、ブラセロの賃金・労働条件を決定し、労働省が必要な数のブラセロを募集、輸送し、あたかも「世界最大の労働請負人」のような役割を担い、司法省が移民法によってブラセロの量を調整した。ブラセロを導入したい農場主は農場主団体を通じてブラセロを申請し、農場主団体が必要人数、賃金、雇用期間、労働時間、作業内容、宿舎、食事等を明記した申請書を地域の労働省「農場労働力配置サービス」(Farm Placement Service, 以下FPSと略記)へ提出し、FPSはその申請書にもとづいて国内農業労働市場

14) Ernest, Galarza, *Farm Workers and Agribusiness in California*, 1947-1960, pp. 55-56.

15) *Ibid.*, p. 57.

16) Ernest Galarza, *Merchants of Labor*, p. 171.

17) *Ibid.*, pp. 125-128.

への悪影響がでないかを調査・確認した上で、農場主団体へ許可証を発行する。このように、FPSはブラセロ導入の「環」¹⁸⁾をなす機関であった。したがって、誰がこの長官に任命されるかは農場主団体にとってきわめて重要であった。

FPSの長官のポストは、1951～59年まで最大級の法人農場の経営者であるディジョージオー・フルーツ・コーポレーション (DiGiorgio Fruit Corporation) のカウンセラー、アグリビジネスの公的拠点と呼ばれる「州農業理事会」のアドバイザーであったエドワード・ヘイズであった。農場主団体は、農業理事会、各種諮問委員会を通じて州の農業政策を事実上支配し、ブラセロ計画実現に大きな影響力を行使した。1948年、農場主団体の代表者からなる「農業諮問委員会」が設立され、この会員には「アソシエイティド・ファーマーズ」¹⁹⁾のフィル・バンククロフト、インペリアルバレー・ファーマーズ・アソシエーションのB. A. ハリガン、サリナスバレーのジャック・ピアスなどの主要な農場主団体の代表が含まれており、この委員会は州農業委員会への諮問、FPSへの諮問を通じて、ブラセロ計画の遂行にあたって重要な役割を演じた。さらに、公法78号の実施に伴う問題の解決を援助する有力な農場主団体の代表からなる「地域別外国人労働施行委員会」が設置され、この委員会は公法78号制定後の最も重要な時期にFPSと密接に連携して、地域別の農場主団体の利害を調整し、地域別の公平な分配、円滑な運営に重要な役割を担った²⁰⁾。

3. ブラセロと農業労働市場

a. 農業労働市場の特質

カリフォルニアの農場主は、「過少支払いと過重労働」こそが農村に充分で流動的な人口を確保しておく最良の方法であり、賃上げと労働条件の改善は「家族総出の労働」にもとづく家族生活を破壊し、農村労働者の流出を招く、と主張していた。農場主にとって、この労働力「不足」とは特定時期と特定地域における一時的・地域的なものであり、年間を通じてあらゆる場所に引き起こされる問題ではないのであり、必要な労働力とは収穫時に農場に現れ、それが終われば農場を自然に去って行くような労働力、そのような労働力が理想的な労働力であった。換言すれば、農場主にとって理想的な労働市場とは、市民的権利の欠如した外国人と人種的偏見により他の職業を見いだすことが困難であり、家族総出で生活を維持する低賃金労働者が収

18) Ibid., p. 114.

19) 1933年インペリアル平原の農場主団体は州商工会議所、ファーム・ビューローの主導により、農業主の一種の自警団組織、「アソシエイティド・ファーマーズ」を設立し、一年後には26の郡で同様の組織が次々と設立された。ケアリー・マックウィリアムはこの組織を「農村でのファシズムの台頭」と呼んでいる。

20) Ernest Galarza, *Merchants of Labor*, p. 124.

穫時期に特定の場所で十分に確保できるような流動的・分断的な労働市場であった²¹⁾。このような労働市場を創出・維持するのに理想的な労働力が南の隣国に大量に存在するメキシコ人「過剰人口」であった。

カリフォルニアの農業労働市場は歴史的にも中国人、日本人、メキシコ人、フィリピン人などの外国人を主要な労働力として導入し、しかも、農場主は、外国人労働力に対して移民法、人種的偏見を最大限に操作・活用して「人種的隔離・分断と競争」を行い、それによって、外国人農業労働者の賃金・労働条件を最低限に抑えてきた²²⁾。

だが、1930年代に入り様相が一変する。農場主は南部農村から大量に放出される白人貧農出身者を農業労働者として雇用しはじめた。そして、これら労働者が、1937年頃には30万人にも達し、州農業労働市場の支配的な労働力となり、カリフォルニア農場主は「歴史上はじめて十分に国内の労働力が確保できるようになった」と歓喜の声をあげていた。同時にこの時期に、1920年代以降、南西部農業の主要な労働力をなしていたメキシコ系アメリカ人、メキシコ人労働

21) 大塚秀之氏はケアリー・マックウイリアムス『畑の中の工場』(Carey McWilliams, *Factories in the Field*, pp. 6-7) を引用して、カリフォルニア農業の特質を次のように規定している。「多くの平原地帯が何故大規模な封建色の濃い帝国から成り立っているかを理解するためには、また、農業が工業化され、農場が農場的な工場に何故とって代わられたかを知るためには、さらに、農業中心の平原地帯で周期的に爆発するテロと暴力の背後に一体何が横たわっているかを認識するためにはある程度までカリフォルニアの社会史を理解することがひつようである。」この歴史はこれまでほとんど無視されてきたが、それは、人種上その他の少数集団がほとんど70年にわたり少数の強大な土地所有者によって搾取されてきた物語」なのであって彼ら土地所有者の権力というものは「スペイン統治下の時代に創出された所有と支配の封建的形態に起源をもつ、時代錯誤的な土地所有制度」に立脚するものであった。そして、大塚氏はカリフォルニア農業構造の構造の特質を「大土地所有と外国人労働者の結合の上に築き上げられた特殊カリフォルニア的農業経営様式」と呼んでいる。

「ケアリー・マックウイリアムスとアメリカ合衆国の人種差別」『一橋論叢』第8巻第1号、96頁。

22) フィッシャーは農村労働市場内部での労働者の移動が頻繁であるにもかかわらず、農業と農外の労働市場との移動が限定的であると述べ、その理由として、第一に、偏見という心理的要因をあげている。人種的隔離と非移動性という特徴をもっていることを指摘し、その理由として、第一に、偏見という心理的要因をあげている。歴史的にもインディアン、東洋人、メキシコ人、フィリピン人が主要な農業労働力をなしてきたために人種的な偏見が多く残っているというのである。そしてこの偏見によって農業労働者は農外雇用を容易に見いだすことが困難であり、農場に留まることを余儀なくされ、そこでの低賃金と劣悪な労働条件を甘受せねばならないというのである。戦時・戦後、南部から移住した黒人が農村に移住しなかったこともここに起因している。第二に、工業部門での労働組合の人種差別的制限政策が農業労働者の工業労働市場への移動を疎外している、と述べている。

さらに、フィッシャーはカリフォルニア農村の収穫労働市場の特徴を労働が熟練を要せず低級なために誰にでも働くことが可能であり、したがって労働への接近が誰にでもできる非構造的流動的市場であると指摘し、その供給源として次の4つを取り上げている。第一に、都市での失業レイオフ労働者の生活稼ぎ、第二に、南西部の移動労働者の移住、第三に、農村・都市の主婦、児童、学生のアルバイト、第四に、外国人労働者がそれである、と指摘している。Lloyd Fisher, *The Harvest Labor Market in California*, pp. 13-15.

表3 農業従事者数の推移と構成 (1950-60)

	総数	農場主と家族	常雇い	季節雇い	外国人契約
1950	355,050	128,292	107,300	112,033	7,425
1955	363,258	111,783	99,867	111,408	40,200
1960	329,650	95,258	92,433	99,292	42,667
1950	100	36	30	32	2
1955	100	31	27	31	11
1960	100	29	28	30	13

出所：California Dept., of Employment, *Agricultural Employment in California, By Type of Worker, Mid-Month Estimates, 1950-1962*, Annual Report. 1963. より作成。

働者の一部を強制的に送還した。かつての南部貧農は勤勉であり、一家総出で働き、農業労働に熟知し、信頼できる労働力であると同時に、彼らは独立心が強く、労働・人間の尊厳の侵害に対して果敢に戦うという強靱な闘争心を持ち、30年代の農業労働者の組織化の先頭になった。

第二次世界大戦の勃発がこの農村での労働市場構造に決定的な転換をもたらした。軍需産業として、造船、航空機製造業が政府資金の投入によって一挙に作り出され、1930年代に堆積された農村人口が急速に流出しはじめたのである。

b. 農業従事者数の推移と構成

1950年におけるカリフォルニア州の農業従事者数人口をみると、総数35万5,050人のうち、12万8,292人(36%)が農場主とその家族、10万7,300人(30%)が年雇い、11万2,033人(32%)が季節雇い、7,425人(2%)がブラセロからなっている(表3)。このように、農業従事者数構成の特徴は他の農業地帯と比して、雇用労働者の割合が高く、彼らが全体の64%を占めていることである。さらに、ここには、ウエットバックの数が含まれていないことに留意せねばならない。農業従事者数人口の構成を見ると、第一に、農場主と家族労働者であり、大規模農業をのぞき、彼らは年間を通じていつでも駆り出され、経営ばかりでなく、監督を含む農作業全般に従事する。第二に、常雇用労働者であり、彼らは年間を通じて整地、播種、防除、肥料・農薬の散布、灌漑作業などの一般的農作業に従事する。また、収穫時には季節労働者の監督にも当たる。第三に、臨時・季節労働者であり、収穫時の繁忙期に集中的に雇用される。季節労働者のなかには、農場を転々としながら農業労働に従事して生活をたてる移動農業労働者、農業労働に従事して生活を補完する主婦、学生、児童労働者がいる。第四に、メキシコからの政府間協定に基づく契約労働者がいる。

1950年代中頃以降、農業従事者総数が減少していく。その過程で、農場主と家族、常雇用労働者、季節労働者の割合の減少とは逆に、外国人労働者の割合が増加し、総従事者の13%をブラセロが占めるようになる。そして、ブラセロは季節労働に集中し、1960年には季節労働者全体の約30%を占めるに至る。

ブラセロの数が最も多かった1956年度におけるブラセロの役割をみていこう(表4)。この

表4 農業従事者構成とブラセロの割合 (1956年)

月	総従事者数	国内季節雇用者(a)	ブラセロ(b)	$b/a+b \times 100$
1	319,200	79,800	30,300	27.5
2	311,400	72,800	30,000	29.2
3	292,800	55,900	28,700	33.9
4	301,000	61,500	31,600	33.9
5	356,600	100,500	48,600	32.6
6	401,700	132,300	62,400	32.0
7	381,900	120,400	54,900	31.3
8	399,100	129,000	63,800	33.1
9	464,800	167,600	91,330	35.3
10	439,400	138,600	95,400	40.7
11	344,000	97,600	41,400	42.4
12	309,300	72,500	32,200	30.8

出所: Calif., Dept. of Employment, Farm Placement Service, *Agricultural Employment in California*, Annual Report より作成。

表5 年間農産物販売額・経済階層別雇用労働者数 (1959年)

	I	II	III	IV	V	VI	
農場数	99,232	14,526	12,035	13,632	13,335	10,311	3,090
%	100.0	14.6	12.1	13.7	13.4	10.4	3.1
雇用者数	145,215	103,423	17,498	9,848	6,409	2,533	519
集中度%	96.5	71.2	12.0	6.8	4.4	1.7	0.4

注: 年間農産物販売額別

I. 4万ドル以上層, II. 20,000-39,9000, III. 10,000-19,999, IV. 5,000-9,999

V. 2,500-4,999, VI. 50-2,499

出所: 1959 U. S. Census of Agriculture, Vol. 1, Part 48, pp. 42-44 より作成。

年でブラセロが最も多い月は10月の9万5,400人であり、この数は季節労働者市場の41%にも達し、ブラセロの数が最も少ない3月においても季節労働者の34%占めている。このようにブラセロが季節労働市場において、30~40%を占める重要な労働力となっていることが分かる。

c. ブラセロと経済階層別雇用者数

ブラセロを雇用した農場を経済階層別に調査した資料ではないが、経済階層別に雇用労働者の数、賃金支払い額をみることで、どの階層に多くのブラセロが集中していたか推定できるであろう。

ブラセロ計画がピーク時の1959年における雇用労働者の使用数を経済階層別にみていこう(表5)。州の農場総数9万9,000で雇用する雇用労働者の数は14万5,215人である。そのなかで、総農場の14.6%を占める年間農産物販売額4万ドル以上層が総雇用者の71.2%を集中して

表6 農場の型別賃金支払い額 (1950年)

	農場数	賃金支払い総額	一農場当たり	常雇業者	季節雇業者
野菜	4,037	55,344(千ドル)	13,709	8.8	13.5
果物	26,983	110,328	4,089	3.1	3.4
綿花	4,957	57,317	11,563	4.6	5.6

出所：1950 *U. S. Census of Agriculture*, Vol., 1, Part 33, pp. 204-205. より作成。

いる。ここからみても、ブラセロが年間販売額4万ドル以上の大規模経営農場に集中的に雇用されていることが推定できる。だが、州の農場の型で最も数の多い果実農場は小規模でも収穫作業は雇用労働なしに出来ず、収穫期には何人かの雇用労働者を使用している事実にも注目せねばならない。

d. 農場の型別賃金支払い額と雇業者数

1950年農場の型別、雇用労働への賃金支払い額と雇用労働者数をみよう(表6)。最大の賃金支払い額は、多数で小規模農場の多い2万6,983の果実農場が1億1,000万ドル、一農場平均4,089ドルを支払い、常雇用労働者3.1人、季節労働者3.4人を雇用している。これに対して大規模農場の多い4,037の野菜農場が5,500万ドル、一農場平均1万3,709ドルを支払い、8.8人の常雇用労働者と13.5人の季節労働者を雇用している。この他に、大規模農場の多い4,957の綿花農場が5千700ドル、一農場平均1万1,563ドルを支払い、4.6人の常雇用労働者と5.6人の季節雇用労働者を雇っている。そして、この3つの型の農場が州の賃金支払い総額の60%近くを占めている。

e. ブラセロ労働と作物別特徴

① ブラセロ労働の特徴

有機物を生産する農業労働にとって「時という要因よりも重要な要因はない」。農業にとって「決定的瞬間」とは収穫作業である。ブラセロの多くが雇用された野菜、果実の収穫作業の機械化は、一般的ではなく、依然として「手の労働」に依存する部分が多く、労働は集中的・集団的な形態を採った。摘む、捨てる、採る、抜く、刈る等の労働が組・列・対をなして行われる。これらの労働は、健康であれば誰にでもできる単純だが、背を曲げたままの「背骨折り作業」と呼ばれる重労働である。しかも、「農地内工場」(factories in the field) と呼ばれる大規模経営農場などにおける収穫労働は建物によって遮断されることのない炎天下の広大な大地の上で、夏期には摂氏40度以上の乾燥した「灼熱地獄」のように環境のなかで腰を曲げたままの姿勢で長時間働くことを余儀なくされる。さらに、農地には土地の生産性を上げるために多量の農薬・肥料が散布されるので、労働者は皮膚病に悩まされ、また、乾燥した土地での作業は呼吸器の障害の原因となることがしばしばである²³⁾。

23) Henry Anderson, *The Bracero Program in California*, 1961. 第5章を参照。

表7 作物別ブラセロ雇用者数 (1960年)

作物	雇用者数	メキシコ人契約	%
ブドウ	59,450	1,470	2
トマト	44,000	34,960	79.5
綿花 1)	35,550	2,000	6
アズ	33,520	1,250	4
桃	31,050	1,670	5
プラム	30,300	210	1
綿花 2)	21,200	3,260	15
イチゴ	17,950	10,000	56
ナッツ	11,750	70	0
アスパラ	10,050	5,520	55
レモン	8,850	7,110	80
砂糖大根	7,700	6,440	84
レタス	7,600	3,940	52

出所: Calif., Dept., of Employment, *Calif., Annual Farm Larm Labor Report*, 1961, pp. 30-31 より作成。

注 1) 摘み取り 2) 間引き

② ブラセロ雇用の作物別特徴

ブラセロが雇用された作物とその作物の収穫ピーク時の季節労働者に占めるブラセロの割合を示したのが表7である。

ブラセロは野菜の収穫労働に集中している。トマトの収穫労働には3万5,000人のブラセロが集中し、その作物の季節労働者の79.5%を占め、支配的労働力となっている。この他にも、レモン、イチゴ、レタス、砂糖大根、アスパラにおいてブラセロは不可欠の労働力である。収穫労働の中ではレモンをのぞくと、比較的軽労働である果実の収穫に従事するブラセロは少なく彼らの大半がトマトを中心とする野菜の収穫重労働に従事しているという特徴がある。

f. トマト栽培と収穫作業

1962年度のトマト栽培面積をみると、約20万エーカーであり、トマト生産は州農業の主要農作物であり、全米の総生産量の3分の2を占めた。カリフォルニア州のトマト栽培農場は、9月から10月末にかけての収穫ピーク時には4万人以上のメキシコ人契約労働者を使用して、年間1億3,000千万ドルの収益を得ていた。戦時の保存食料としてトマトの需要が高まり、生産が増加して以来、需要の縮小と拡大を繰り返した。そして、朝鮮戦争後の需要の低下の後、1956年頃から需要が再び拡大し、1962年には栽培面積が記録的に拡大した。トマト栽培農場は全般に経営規模が大きく、専門的・集約的に単一作物を栽培する場合が多い。そして、その多くの農場がトマト加工業者の系列のもとに置かれ、厳格な生産規制・管理のもとにおかれている。1960年にカリフォルニア・ブラックウェルダール製造会社がトマト収穫用機械を発明するが、加工用トマトの収穫は、熟後の測定、規格の統一などにおいて困難があり、この特殊な収穫用作

業機は高価であり、使用期間も短期であったために一般化するのには時間がかかった。そのため、農場主は収穫用機械の導入によって生産量を増大し、経営費の負担増を固定化させるよりは、むしろ生産量の増大を流動的な季節労働者を大量に雇用することを好んだ。このような労働力としてブラセロは理想的であった²⁴⁾。

主要生産地ヨーロ郡における3万4,000エーカーの加工用トマト栽培農場で、エーカー当たり要する年間労働時間は、常用労働が14時間、季節労働が153時間である。季節労働は8～10月の間に集中し、短期間に、熟した果実を収穫せねばならない。常用労働は、トラクターでの耕起、農薬散布による除草、化学肥料の施肥、播種、除草駆除、間引き、霜除、そして、季節労働者の監督などである。季節労働は「手の労働」が支配的である収穫作業に106時間、つまり、季節労働の必要労働時間の70%がこの労働に費やされている。エーカー当りの季節収穫労働の必要労働者をみると、一日8時間労働の場合、年間80人の季節労働者、一日10時間労働の場合、年間64人の季節労働者が必要となる²⁵⁾。トマト収穫時の作業は、作業の集団が対、列に割り当てられ、熟した果実をもぎ取り、賃金は出来高で支払われる。雇用は早いもの順である。もぎ取られた果実は直接に箱に入れられ、その箱に自分の印をつける。そして、収穫個数記入カードにパンチを入れ、仕事の終わりにそのカードが収集される。カードの半片はもぎ取り者が半片は監督者が保存し、毎日、新しいカードが配給される。それらの全作業工程を監督するのも常用労働者の仕事である²⁶⁾。

8. 労働市場の人種・民族、移民資格、職種別編成

カリフォルニア農業労働市場の特質を、人種・民族、移民資格別に作物、賃金、職種の特徴を分析したのがW. メッツラー (William Metzler) である²⁷⁾。1962～63年にかけて、ウィリアム・メッツラーはサンホワッキン平原のほぼ中央に位置し、桃を中心とする果実、トマトなどの野菜の集約的栽培が盛んなスタニスラウス郡にて農業労働市場に関する詳細な実態調査を行っている。特に、ブラセロ計画の終了直前期における農業労働市場におけるアングロ、チカノ、コミュニーター、ブラセロの地位と役割の検討は興味深い。

調査の対象となったのが905人の農業労働に従事する人々である。その内訳を人種・民族別にみていくと、アングロ (ヨーロッパ系白人) の大半がオクラホマ、テキサス、アーカンソー州などの南部・南西部地域からの移住者であり、そのうち1930年代の「黄塵移住者」が13%、残りが1940年代以降の軍需の高まりのなかでの移住者であり、農業労働市場の48%を占める。

24) *Seasonal Labor in California Agriculture*, University of California, Division of Agricultural Science, 1962, p. B-173.

25) *Ibid.*, p. B-183.

26) *Ibid.*, p. B-176.

27) William Metzler, *Farm Workers in a Specialized Seasonal Crop Area, Stanislaus County, California*, Giannini Foundation Research Report, No. 289 July 1966.

表8 人種・民族、移民資格と職種・作物別構成(%)

	総数	一般	果実 ²⁾	野菜 ²⁾	加工	農外
アングロ	437(人)100	8	70		9	13
チカノ	129 100	22	30	29	7	12
コミューター	120 100	19	43	27	3	8
メキシコ人(ブラセロ)	198 100	5	1	85		9
その他 1)	21 100	10	29	33	14	14

出所: William Metzler, *Farm Workers in a Specialized Seasonal Crop Area, Stanislaus County, California*, Giannini Foundation Research Report No. 289 July 1966, p. 27, T. 5,より作成。

注 1) 黒人14人, アラブ人 3人, フィリピン人 2人, インド人 1人, プェリトリコ人 1人を含む。

2) 季節雇用

彼らの多くが貧農出身であり、独立心に富んだ白人プロテスタントとその家族である²⁸⁾。次いで、メキシコ系アメリカ人・チカノである。彼らの80%が、1950年代以降、テキサス州、カリフォルニア州の他地域から移住してきた移動農業労働者であり、農業労働市場の14%を占める。彼らのなかにはテキサス・メキシカンと呼ばれる農業労働のプロ、本来の農業労働者が多く含まれ、1940年代には全米の移動農業労働者の約半分を占めていた。しかし、ブラセロ計画により、テキサスを拠点とした労働・生活から、全国各地を転々とする移動労働者化していった。第三番目がグリーンカード・コミューターである。彼らは1952年移民法のもとで永住権を取得した選ばれたブラセロであり、労働市場では13%を占め、「ドメスティック」として分類され、外国人契約者とは区別された。第四番目がブラセロである。彼らは1950年代中頃から急速に増加し、農業労働市場の22%を占めた。その他として黒人、アラブ人、フィリピン人などがいた²⁹⁾。

これらの各々異なった社会・経済的背景と人種・民族、移民資格別背景をもった人々が農業労働市場において異なった地位と役割をもっている。

まず、職種別にみていこう。一般的労働とは機械の操作、整地、種蒔、農薬・肥料散布、灌漑、除草などの年間を通しての作業と収穫時の管理・監督にも当たる労働である。この労働には一定の機械工学、生物学、植物学、土壌学の知識が必要とされる。次ぎに、収穫労働であるが、これは収穫用作業機の発達が遅れているために、果実・野菜の場合、ほとんどが「手の労働」である。この労働は炎天下でのもぎ取り、摘みとり、引き抜き、切り取りなどの単純だが肉体的には重労働である。特に、野菜の収穫作業は、果実の作業と比べて肉体的に過酷な労働である。だが、果実のなかでメロンの収穫作業は、野菜の作業と同様に腰を曲げての「背骨折り」労働である。それでは、この職種・作物が人種・民族、移民資格とどのように絡み合っているのか。

アングロは一般的労働には8%と比較的少なく、作物別でみると季節果実労働に全体の70%

28) Ibid., p. 23.

29) Ibid., p. 24.

表9 人種・民族, 移民資格別年間雇用期間と賃金

	雇用期間(日)	賃金(ドル)
アングロ	115	1,365
チカノ	150	1,593
コミュニーター	162	1,782
ブラセロ	119	568
その他	145	1,569

出所: Metzler, *Farm Workers.*, p. 44, T. 11, and p. 53, T. 14 より作成。

が集中し、野菜にはほぼ皆無である。チカノは一般的労働に22%、果実の収穫作業に30%、野菜の収穫作業に29%と一般的労働、季節収穫労働とにほぼ等しく従事している。コミュニーターは一般的労働に19%、果実収穫に43%、野菜に27%であり、果実の収穫作業の割合が高く、一般的作業が若干少ない。ブラセロは一般的労働が5%と低く、野菜の季節・収穫労働に85%が集中している。これはアングロが同じ収穫労働であるが、果実に集中しているのと対照的である。このように、人種・民族、移民資格別に職種・作物が編成されていることが分かる³⁰⁾。

次に、雇用期間別にみていこう(表9)。まずアングロは年間平均115日農業労働に従事し、チカノが150日、コミュニーターが162日、ブラセロがメキシコの46日を含んで119日働いている。家族形態別にみると、単身であるブラセロを除いては大半が家族総出で働いている。世帯別特徴をみると、アングロの世帯主は153日、チカノは199日、コミュニーターは170日、ブラセロは116日働いている。主婦はアングロ、チカノが各々79日、92日間、コミュニーターは131日と比較的長期である。このように、アングロは世帯主・主婦とともに、チカノ、コミュニーターよりも雇用される期間が短期間である。さらに、家族の構成員のなかで通学していない若者は家族の重要な稼ぎ手であるが、アングロでは129日、チカノは172日、コミュニーターは144日働いている。通学する若者はチカノ家族にとって重要な稼ぎ手となっている。チカノ、コミュニーターは家族総出で長期間農業労働に従事していることが分かる。これは、年間賃金がアングロを上回っていることと併せて考えると、彼らメキシコ系労働者が農業労働者の核を占める労働力となっていることが窺える³¹⁾。

賃金の特徴をみると、職種別には一般的労働が日給11.3ドル、季節の果実労働が10.7ドル、季節の野菜労働が7ドルである。このように、同じ農業労働でも職種・作物によって相当の賃金格差が存在していることが分かる。これを、人種・民族、移民資格別にみていくと、この格差の性格がよりはっきりする。日給はアングロが12.79ドル、チカノが10.62ドル、コミュニーターが11ドル、ブラセロは4.75ドルである。このようにブラセロの賃金が極端に低いことが分かる。このように、同じ季節収穫労働でもアングロの大半に従事する果樹・モモの収穫は比較的

30) Ibid., p. 25, T. 4.

31) Ibid., p. 53, T. 14.

労働が軽いにもかかわらず、賃金が高い。これに対して、ブラセロの大半が従事する野菜の収穫労働は重労働にもかかわらず、賃金が高い。ブラセロは単身男性が多く、雇用期間が政府間の協定により最高6カ月と規定されているために、彼らは短期間に一日の労働時間を長くして出来るだけ多くの賃金を稼ごうとする。年間平均賃金額を人種・民族、移民資格別にみると、アングロが1,356ドル、チカノが1,593ドル、コミューターが1,782ドル、ブラセロは568ドル、その他が1,569ドルである。ブラセロの場合はメキシコで平均46日、アメリカで72日働いての合計賃金額である。このように、ブラセロの賃金が他と比べて極端に低位となっている。これに対して、チカノとコミューターはアングロの賃金を上回っており、メキシコ系労働者が主要な農業労働力となっていることが窺える³²⁾。

4. おわりに

ブラセロ計画は戦時における労働力確保政策として政府の積極的介入のもとで開始された。カリフォルニア州では政府によって農場主団体がメキシコ人労働力調達・管理機構として育成され、各々の農場主は農場主団体を通さずブラセロを導入することが困難となった。この政府の「お墨つき」を得たメキシコ人契約労働者以外に、合法的査証を持たないウエットバックが政府の規制をうけない無権利・低賃金労働力として導入され、ブラセロ計画の不可欠の構成部分として拡大していった。さらに、ブラセロのなかにコミューターという一種のエリートが選別されて作り出され、単純な収穫労働ばかりでなく、一定の熟練を要する機械操作、灌漑施設の管理の仕事にも従事した。このように、ブラセロ計画が進行するについて、メキシコ人労働者のなかに移民資格別に三種類の労働力が作り出されていった。

これらのメキシコ人労働者は農業労働市場において、1930年代に戦闘的な労働運動を展開した南部貧農出身の白人農業労働者にとってかわり、支配的な労働力をなしていった。メッツラーの研究をみても、南部貧農出身の農業労働者がカリフォルニア州の中央部に相当数農業労働に従事しているのが確認できるが、その大半が桃を中心とする比較的軽労働の果樹の収穫労働に従事し雇用期間も短く、いわば、アルバイト的性格が強い。これに対して、メキシコ系労働者は農業労働を専業とし、経営規模の大きい野菜、果実、綿花農場を中心に、家族全員で収穫期の「背骨折り労働」と呼ばれる重労働に従事した。メキシコ系労働者が州農業の基幹的労働者となっていく過程で、人種・民族、移民資格によって労働市場に職種、作物、賃金に新たな格差が導入された。

このようにして、政府間協定に基づくブラセロ計画によるメキシコ農業労働者の大量の導入をてことし、農場主団体へと組織されたカリフォルニア農場主は流動的・分断的な労働市場を作り出したのである。

32) Ibid., p. 44, T. 11 and p. 53, T. 14.